

はじめに

～出会い(縁)を信じてみようか～

目に見えるものは疑いようもなく、誰もがその存在を信じます。

しかし、友情、愛情から幸運、神仏に至るまで、目に見えないものの存在は、その存在を信じた者のみにあります。

信じて裏切られ、傷つくことを恐れた若い頃の私は「目に見えないものは一切信じない」と決め込んで生きていました。

でもみなさん、目に見えないものの存在を（もちろん取捨選択は必要ですが）「信じて生きていく人生」と「まったく信じない人生」とでは、どちらが豊かな人生に繋がっていくでしょうか。

答えはわかりません。

ただ、いま、みなさんが出会った、日商簿記3級との縁（えにし）、これを信じてみませんか。自分の将来に、有用だからこそ、必要だからこそ、いま出会えたのだと。

信じて、一生懸命に取り組めば、これまで学んできたことの意味も分かり、自信になるばかりか、社会的に認められる資格にもつながり、就職や、そのあとの社会人としての活躍にも、大きなプラスになる。

それだけは、確かなことです。

ここに、新たに1本の道を造りました。

全商簿記の3級、2級を学んできたみなさんを、日商簿記3級の合格へと、最も効率よく導く道です。そして沿道には、頑張るあなたを応援する者たちもいます。

さあ、この道への第一歩を、勇気をもって踏み出してみましょう。

あなたの成功へと続く物語が、ここから始まります。

ネットスクール株式会社
代表取締役社長 桑原知之

本書の特徴

出題頻度を考慮し、内容としての重要度を示しています

- ★★★…合格に不可欠な内容
- ★★…知っておくべき内容
- ★…押さえておけばいい内容

このSectionの本質を一言で示しています

Section

取引を記録するルールはコレ!

重要度 ★★★

1

仕訳ってなに?

はじめに

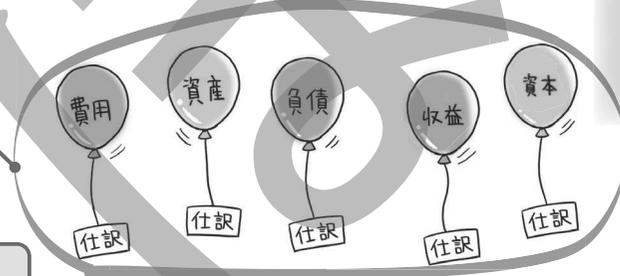
「費用を500万円使った」「収益が700万円あった」といった場合に、簿記ではどのように扱うのでしょうか。

簿記で大切な状況設定を「はじめに」で説明

1 増えたとき減ったときに仕訳を

資産・負債・資本が増減したり、収益・費用が発生したときに、簿記では『仕訳』という処理を行います。また仕訳を行う前提となる事象を『取引』といいます⁰¹⁾。

イラストを見て状況を理解できるようにしました



01) 「火災」「盗難」といった事象は、資産の減少が生じるので、簿記では「取引」と考えます。また電話やFAXなどで商品の注文をしたり、受けただけでは、財産に増減が生じていないので簿記の「取引」とは考えません。

ちゃんと“理由”を書いています

2 勘定科目で捉える

『勘定科目⁰²⁾』とは簿記を行うときの、金額の動きを把握する単位のことです。

たとえば“資産が増えた”というときに、それだけでは「現金」が増えたのか「備品」が増えたのか、はたまた「土地」が増えたのかわかりません。また、「収益が発生した」といっても、商品売ったときの「商品売買益」と、預金についた「受取利息」とでは意味が異なるでしょう。

そこで簿記では、勘定科目を用いて資産・負債・資本・収益・費用のそれぞれを、さらに細かく分けて把握します。

02) 計算(勘定)する単位(科目)で勘定科目です。

資産の勘定科目

現金	商品	未収入金	貸付金	備車	運搬具	建物	土地
----	----	------	-----	----	-----	----	----

負債の勘定科目

買掛金	未払金	借入金
-----	-----	-----

資本の勘定科目

資本金	繰越利益剰余金
-----	---------

言葉の説明は側注で

とにかく“わかりやすさ”と
“知識の定着 (=実力アップ)” にこだわった本です！！

重要ポイントを見出しにして、
復習しやすくしています

費用の勘定科目

給料 支払家賃
広告宣伝費 支払利息
水道光熱費

収益の勘定科目

商品売買益 受取手数料
受取利息

つまり、仕訳を行うさいには、資産・負債・資本・収益・費用といった大きな区分ではなく、それらに属する「現金」や「備品」、「給料」といった、より細かい勘定科目を用いて行うのが。

講師からのアドバイスや
別の考え方も側注で示しています

3 取引には2つの側面がある

「銀行からお金 ¥300を借りた」という取引について考えてみましょう。まず、資産であるお金(=現金)が増えています。その一方で、負債である借入れ(=借入金)も増えています。

また、「お金 ¥200を使って広告した」という取引では、広告宣伝費という費用が発生して、現金という資産が減っています。

このように1つの取引は必ず、2つの側面⁽³⁾を持つものなのです。

03) 原因と結果という言い方をする人もいます。



…合格の2つの側面

簿記では、取引を2つの側面で捉え、勘定科目を用いて記録を行います。そして、この取引を記録する方法を「仕訳」といいます。

設例でわかりやすく
学べるようにしています

4 仕訳の基本形は1対1

では、「銀行から現金 ¥300を借りた」という取引で仕訳のかたちを見てみましょう。

(借) 現金 300 (貸) 借入金 300

簿記では左側を借方(debit)、右側を貸方(credit)といい⁽⁴⁾、仕訳の左右にある(借)(貸)は、借方と貸方を示しています⁽⁵⁾。

04) 借りる・貸す、という言葉の意味との関連は考えないでください。単に左側を借方、右側を貸方と知っているにすぎません。

05) 貸借対照表や損益計算書でも左側を借方、右側を貸方とします。

06) 「かりかた」「しかた」の唯一異なる文字の「リ」と「し」を使って覚えましょう。

左側 借方 かりかた
右側 貸方 しかた

「リ」と「し」を伸ばして覚えよう！⁽⁶⁾

よく間違えてしまう
部分も指摘しています

わかりやすい覚え方も入っています

各 Section の終わりには Try it (確認問題) を掲載しているので、知識の確認、定着にお役立てください。

本書の使い方

「日商簿記3級、難しそう…」と思いませんか？

右ページの表を見てください。全商簿記3級・2級の出題範囲を学習したことがあれば、日商簿記3級を学習する上で必要な追加論点は少ないです。

また、全商簿記3級・2級の出題範囲となっている論点が、日商簿記3級では出題範囲外というものが多くあります。

本書は、全商簿記2級の出題範囲を学習したことのない方でも、日商簿記3級に合格できるような構成にしています。

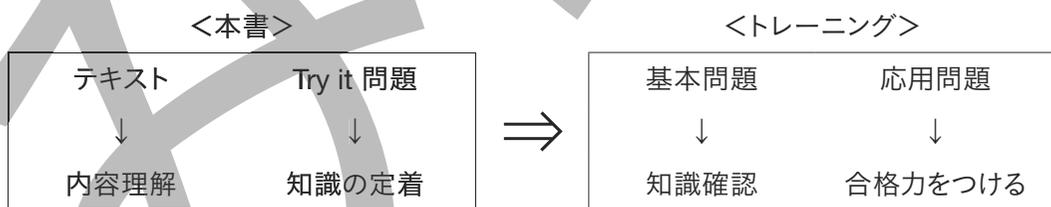
全商簿記3級・2級で学んだ知識を活かして、日商簿記3級の合格を目指しましょう！

簿記の学習では“1回目のアウトプットはインプットの内”といわれます。

つまり、「テキストで学習した内容は、一度解いてみないと理解にならない」ということを表しています。

したがって、本書では、テキストだけではなくSectionごとにTry itとして確認問題を収載しています。

そして、さらに問題を解いて本試験での合格力をつけていただくために、本書の準拠問題集“とおる”トレーニングの併用をお勧めします。



本書のSectionごとにTry itを解いたらすぐにトレーニングの問題に移って同じSectionの問題を解答し、テキストの内容を確実に修得して、次のSectionに進むことをお勧めします。

日商簿記3級を学習する上で必要な項目

内 容	全商簿記3級の出題範囲	全商簿記2級の出題範囲	日商簿記3級を学習する上で必要な追加論点
(1)簿記の基礎	ア. 資産・負債・純資産・収益・費用 イ. 取引・仕訳・勘定 ウ. 仕訳帳・総勘定元帳 エ. 試算表 オ. 繰越試算表 カ. 貸借対照表・損益計算書		決算整理後残高試算表
(2)取引の記帳	ア. 現金預金 当座預金の2勘定制		当座預金、その他の預貯金 (複数口座を開設している場合の管理を含む)
	イ. 商品売買 分記法・3分法(仕入および売上の 値引) 商品券の発行側の処理	割賦販売(販売基準) 未着商品売買・委託販売(委託者 側の処理)→試用販売	クレジット売掛金 受取商品券
	ウ. 掛け売買 貸し倒れ		債却債権取立益
	エ. 手形(約束手形→為替手形) 手形の受け入れ・振り出し・ 引き受け→支払い→裏書→割引	自己受為替手形→手形の不渡り→ 手形の書き換え→為替 裏書や割引にともなう保証債務	電子記録債権・電子記録債務
	オ. 有価証券 売買を目的とした有価証券		
	カ. その他の債権・債務		役員貸付金・役員借入金
	キ. 固定資産 取得・売却		
	ク. 販売費及び一般管理費		
	ケ. 純資産(個人商店の処理)		
	コ. 税金 所得税→住民税・固定資産税・ 事業税・印紙税・消費税	法人税	法定福利費
		サ. 本支店会計 本支店間→支店相互間の取引→財 務諸表の合併 シ. 株式会社会計 設立・新株の発行・剰余金の配当 と処分 社債	差入保証金
	(3)帳簿と伝票	ア. 帳簿 現金出納帳・小口現金出納帳・当座 預金出納帳・仕入帳・売上帳・商品 有高帳(先入先出法・移動平均法)・ 売掛金元帳・買掛金元帳・受取手形 記入帳・支払手形記入帳 イ. 伝票 入金伝票・出金伝票・振替伝票の起 票	特殊仕訳帳(現金出納帳・当座預 金出納帳・仕入帳・売上帳)
		仕入伝票→売上伝票の起票(5伝 票制)・伝票の集計と転記	
(4)決算	ア. 決算整理 商品に関する勘定の整理 貸倒れの見積もり 固定資産の減価償却(定額法) (直接法)	(定率法) (間接法) 有価証券の評価 収益・費用の繰り延べと見越し	当座借越の振替 貯蔵品棚卸 月次決算による場合の処理
	イ. 精算表 ウ. 財務諸表 損益計算書(勘定式) 貸借対照表(勘定式)	(2区分の勘定式)	

日商簿記3級を学習する上で必要ない項目は、二重取り消し線(〇〇〇)で示しています。

日商簿記3級に“とおる”トレーニング 本書との対応表(□□のワクを参照)

Chapter 1 身のまわりの簿記

- Section 1・2 自分貸借対照表を作ろう!
自分損益計算書を作ろう!
- Section 3 貸借対照表と損益計算書の関係
- Section 4 決算の基本思考

Chapter 2 仕訳と転記(本書Chapter 1と対応)

- Section 1 仕訳ってなに?
- Section 2 勘定口座への集計

Chapter 3 現金と預金(本書Chapter 1と対応)

- Section 1 現金
- Section 2 当座預金
- Section 3 普通預金・定期預金

Chapter 4 収益と費用(本書Chapter 2と対応)

- Section 1 収益の計上
- Section 2 費用の計上

Chapter 5 商品売買(本書Chapter 3と対応)

- Section 1 三分法
- Section 2 掛取引
- Section 3 返品
- Section 4 商品売買の諸費用
- Section 5 前払金・前受金と商品売買
- Section 6 クレジットカードによる商品売買
- Section 7 商品券による商品売買
- Section 8 分記法

Chapter 6 固定資産(本書Chapter 4と対応)

- Section 1 固定資産

Chapter 7 その他の債権債務(本書Chapter 5と対応)

- Section 1 約束手形
- Section 2 電子記録債権・電子記録債務
- Section 3 貸付金・借入金
- Section 4 手形貸付金・手形借入金
- Section 5 役員貸付金・役員借入金
- Section 6 未収入金・未払金

Chapter 8 一時的な処理(本書Chapter 6と対応)

- Section 1 仮払金・仮受金
- Section 2 利益にかかる税金(法人税等)
- Section 3 消費税の処理
- Section 4 立替金・預り金と給料の支払い
- Section 5 現金過不足

Chapter 9 会社の設立と利益の計上・配当(本書Chapter 7と対応)

- Section 1 株式会社の設立
- Section 2 純利益の算定と帳簿の締切り
- Section 3 利益の配当

Chapter 10 試算表作成(本書Chapter 8と対応)

- Section 1 試算表の作成
- Section 2 訂正仕訳

Chapter 11 決算整理(本書Chapter 9と対応)

- Section 1 決算整理事項
- Section 2 売上原価の計算
- Section 3 貸倒れの見積もり
- Section 4 当座借越の計上
- Section 5 費用の前払い・収益の前受け
- Section 6 費用の未払い・収益の未収
- Section 7 再振替仕訳の必要性と解き方

Chapter 12 精算表・財務諸表(本書Chapter 10と対応)

- Section 1 精算表
- Section 2 損益計算書と貸借対照表
- Section 3 月次決算

Chapter 13 帳簿

- Section 1 主要簿の記帳
- Section 2 現金・預金に関する帳簿
- Section 3 商品売買に関する帳簿
- Section 4 その他の帳簿 *

Chapter 14 伝票会計(本書Chapter 11と対応)

- Section 1 3伝票制
- Section 2 仕訳日計表

* 本書Chapter 4のSection 2固定資産台帳の問題があります。

目次

Contents

Chapter 1 仕訳と転記・預金

- Section 1 仕訳ってなに? 1-2
- Section 2 勘定口座への集計 1-9
- Section 3 普通預金・定期預金 1-12

Chapter 2 収益と費用

- Section 1 収益の計上 2-2
- Section 2 費用の計上 2-4

Chapter 3 商品売買

- Section 1 クレジットカードによる商品売買 3-2
- Section 2 商品券による商品売買 3-4

Chapter 4 固定資産

- Section 1 固定資産 4-2
- Section 2 固定資産台帳 4-8

Chapter 5 その他の債権債務

- Section 1 電子記録債権・電子記録債務 5-2
- Section 2 貸付金・借入金 5-5
- Section 3 役員貸付金・役員借入金 5-8

Chapter 6 一時的な処理

- Section 1 利益にかかる税金(法人税等) 6-2
- Section 2 消費税の処理 6-5
- Section 3 立替金・預り金と給料の支払い 6-9
- Section 4 現金過不足 6-13

Chapter 7 会社の設立と利益の計上・配当

- Section 1 株式会社の設立 7-2
- Section 2 純利益の算定と帳簿の締切り 7-4
- Section 3 利益の配当 7-8

Chapter 8 試算表作成

- Section 1 試算表の作成 8-2
- Section 2 訂正仕訳 8-9

Chapter 9 決算整理

- Section 1 決算整理事項 9-2
- Section 2 売上原価の計算 9-4
- Section 3 貸倒れの見積もり 9-9
- Section 4 当座借越の計上 9-12
- Section 5 費用の前払い・収益の前受け 9-14
- Section 6 費用の未払い・収益の未収 9-17
- Section 7 再振替仕訳の必要性和解き方 9-20

Chapter 10 精算表・財務諸表

- Section 1 精算表 10-2
- Section 2 損益計算書と貸借対照表 10-10
- Section 3 月次決算 10-15

Chapter 11 伝票会計

- Section 1 仕訳日計表 11-2

Chapter 1

仕訳と転記・預金

Section 1 仕訳ってなに？

重要度 ◆◆◆

Section 2 勘定口座への集計

重要度 ◆◆◆

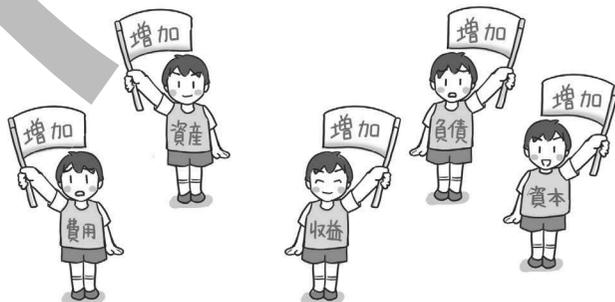
Section 3 普通預金・定期預金

重要度 ◆◆◆

仕訳は覚えられない！

簿記の基礎であり根本でもある「仕訳(しわけ)」が出てきます。この仕訳は“覚える”などと考えるはいけません。人間、覚えたことは忘れるものです。覚えることは最小限にして、理解することに重点を置きましょう。

では、理解するにはどうすればいいのでしょうか。理解するには、取引をする人の立場に立って、具体的に「取引の場면을イメージすること」です。取引の場면을イメージすることさえできれば、仕訳は必然的にできてきます。自分が取引をしている気持ちになって、学習をはじめてください。また、このChapterで「普通預金」と「定期預金」の処理をみていきましょう。



◆用語集◆

仕訳

取引を2つの側面で捉え、勘定科目と金額を用いて取引の記録を行う方法。

現金

会社の所有する金銭など。

普通預金

会社の所有する預金の1種。

定期預金

原則として満期日まで引き出すことができない預金。

取引

会社の活動のうち、資産・負債・資本・収益・費用が増減する事象。

当座預金

預金の1つで、会社が支払手段として用いる。無利息なのが特徴。

通貨代用証券

定額小為替・小切手等、金融機関等ですぐに換金できる証券で簿記上は現金勘定で処理する。

勘定口座

勘定科目ごとに、その増減を記録するために設けられるもの。

小切手

預金者が、銀行に対して、「持参人に代金を支払ってください」と依頼した証券で、信用度が高いので受け取ったときは、現金勘定で処理する。

転記

仕訳した結果を各勘定口座に集計する作業のこと。

小切手の振出し

小切手を作成し、相手方に渡すことで、当座預金の減少となる。

仕訳ってなに？

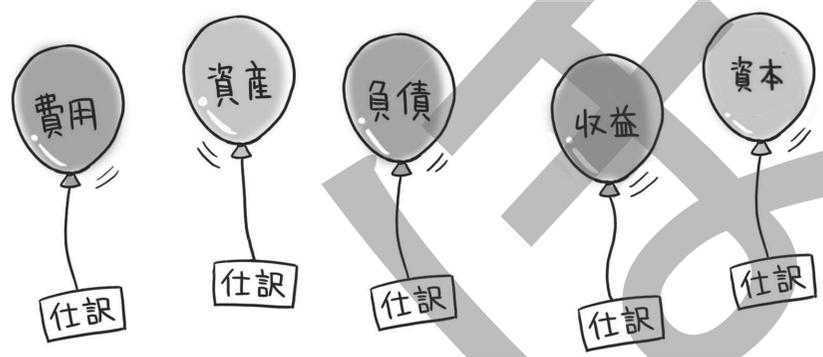
はじめに

「費用を500万円使った」「収益が700万円あがった」といった場合に、簿記ではどのように扱うのでしょうか。

1 増えたとき減ったときに仕訳を

資産・負債・資本が増減したり、収益・費用が発生したときに、簿記では『仕訳』という処理を行います。また仕訳を行う前提となる事象を『取引』といいます⁰¹⁾。

01)「火災」「盗難」といった事象は、資産の減少が生じるので、簿記では「取引」と考えます。
また電話やFAXなどで商品の注文をしたり、受けただけでは、財産に増減が生じていないので簿記の「取引」とは考えません。



2 勘定科目で捉える

『勘定科目⁰²⁾』とは簿記を行うときの、金額の動きを把握する単位のことです。

02) 計算(勘定)する単位(科目)で勘定科目です。

たとえば「資産が増えた」というときに、それだけでは「現金」が増えたのか「備品」が増えたのか、はたまた「土地」が増えたのかがわかりません。また、「収益が発生した」といっても、商品を売ったときの「商品売買益」と、預金についた「受取利息」とでは意味が異なるでしょう。

そこで簿記では、勘定科目を用いて資産・負債・資本・収益・費用のそれぞれを、さらに細かく分けて把握します。

資産の勘定科目

現金	貸付金
商品	備品
売掛金	車両運搬具
未収入金	建物
	土地

負債の勘定科目

買掛金	借入金
未払金	

資本の勘定科目

資本金	繰越利益剰余金
-----	---------

費用の勘定科目

給料 支払家賃
 広告宣伝費 支払利息
 水道光熱費

収益の勘定科目

商品売買益 受取手数料
 受取利息

つまり、仕訳を行うさいには、資産・負債・資本・収益・費用といった大きな区分ではなく、それらに属する「現金」や「備品」、「給料」といった、より細かい勘定科目を用いて行うのです。

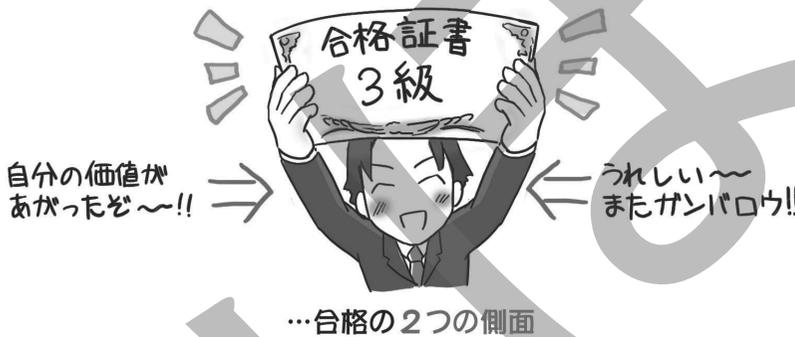
3 取引には2つの側面がある

「銀行からお金 ¥300を借りた」という取引について考えてみましょう。まず、資産であるお金(=現金)が増えています。その一方で、負債である借入れ(=借入金)も増えています。

また、「お金 ¥200を使って広告した」という取引では、広告宣伝費という費用が発生して、現金という資産が減っています。

このように1つの取引は必ず、2つの側面⁰³⁾を持つものなのです。

03)原因と結果という言い方をします。



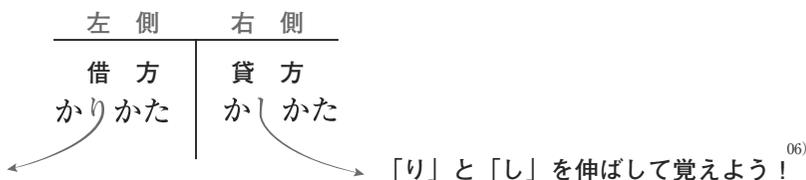
簿記では、取引を2つの側面で捉え、勘定科目を用いて記録を行います。そして、この取引を記録する方法を『仕訳』といいます。

4 仕訳の基本形は1対1

では、「銀行から現金 ¥300を借りた」という取引で仕訳のかたちを見ましょう。

(借)現金	300	(貸)借入金	300
-------	-----	--------	-----

簿記では左側を借方^{かりかた}(debit)、右側を貸方^{かしかた}(credit)といい⁰⁴⁾、仕訳の左右にある(借)(貸)は、借方と貸方を示しています⁰⁵⁾。



04)借りる・貸す、という言葉の意味との関連は考えないでください。単に左側を借方、右側を貸方と知っているにすぎません。

05)貸借対照表や損益計算書でも左側を借方、右側を貸方といいます。

06)「かりかた」「かしかた」の唯一異なる文字の「り」と「し」を使って覚えましょう。

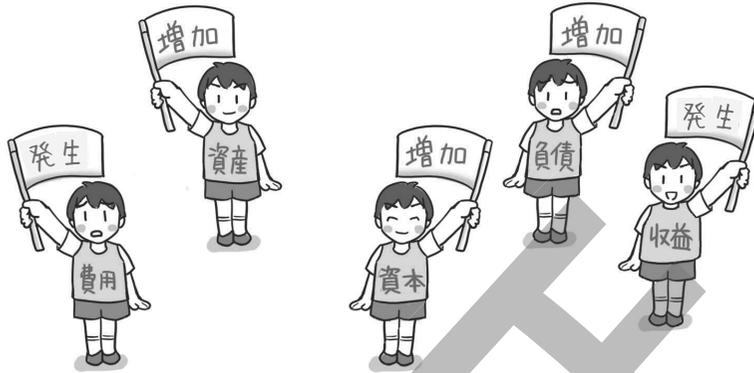
- 1
- 2
- 3
- 4
- 5
- 6
- 7
- 8
- 9
- 10
- 11

5 ホームポジション側で増える

まず「現金」「借入金」といった勘定科目を記入し、最後に金額を記入します。

「現金」は資産ですから借方(左側=資産のホームポジション側)で増え、「借入金」は負債ですから貸方(右側=負債のホームポジション側)で増えています。

つまり、資産・負債・資本の増加や、収益・費用の発生は、それぞれのホームポジション側に記入することになります。



07)取引は資産、負債、資本、収益、費用のうち、2つに変化をもたらします。ただし、同じものが2つということもあります。(例 現金が減って、備品が増える)

08)右側も左側も増える仕訳を練習しておきましょう。
例)土地を¥10で購入し、代金はまだ支払っていない。
(土地) 10
(未払金) 10
⇒土地(資産)も未払金(負債)も増えています。

したがってこの仕訳で、「資産である現金が ¥300 増えた」「負債である借入金が ¥300 増えた」ということを表しているのです^{07) 08)}。

*このテキストの側注では、上記の形で仕訳を示します。

6 ホームポジションの逆側で減る

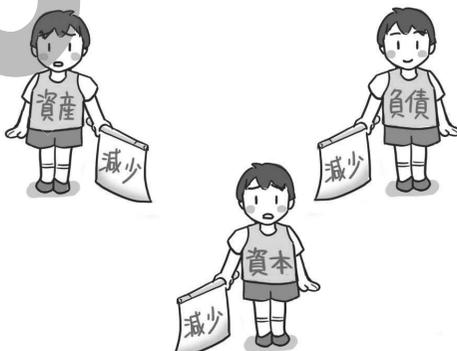
仕訳の例をもう1つあげてみましょう。「現金 ¥200 を支払って広告した」という仕訳です。

(借) 広告宣伝費	200	(貸) 現金	200
-----------	-----	--------	-----

さて、この仕訳では借方(左側=費用のホームポジション側)で「費用である広告宣伝費が ¥200 発生した」ということを意味しています。

これに対し、資産である現金が貸方(右側=資産のホームポジションの逆側)で「資産である現金が ¥200 減った」ということを意味しています。

つまり、資産・負債・資本の減少は、それぞれのホームポジションの逆側に記入することになります。



したがって、資産のホームポジションは借方(左側)ですが、それを逆側の貸方(右側)に書くことによって「資産が減った」ということを示しているのです。

ですからこの仕訳は、「資産である現金が ¥200 減って、費用である広告宣伝費が ¥200 発生した=現金 ¥200 を支払って広告した」ということを意味します^{09) 10)}。

09) 片側が増えて、逆側で減る仕訳を練習しておきましょう。

例) 備品を ¥10 で購入し、代金は現金で支払った。

(備品) 10 (現金) 10
⇒ 備品(資産)が増え、現金(資産)が減っています。

10) 両側とも減ることもあります。

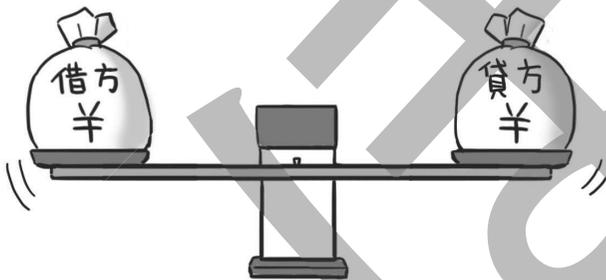
例) 借入金 ¥10 を現金で返済した。

(借入金) 10 (現金) 10
⇒ 借入金(負債)も現金(資産)も減っています。

7 借方と貸方の金額は必ず一致する

「¥100 借りたから現金が ¥100 増えた」「¥200 の現金を支払って広告したから広告宣伝費は ¥200」というのは当然のことでしょう。ですから、仕訳では必ず「借方と貸方の金額が一致する」ということになります。これは仕訳の重要なルールです¹¹⁾。

11) 貸借一致の原則といえます。



この仕訳を積み重ねたものが、最終的に貸借対照表と損益計算書にまとめられるので、当然に貸借対照表と損益計算書の、それぞれの借方の合計金額と貸方の合計金額も一致することになります。

8 今いくら残っている？ それが「残高」

現金 ¥300 を借りてきて、¥200 使いました。すると残っているのは ¥100。この ¥100 を簿記では「残高」¹²⁾と呼んでいます。ですから、このときの借入金の残高は ¥300、広告宣伝費の残高は ¥200 ということになります。

12) その時点で残っている金額を意味しています。

		現金			
借入金	300	200	∴残高 100	広告宣伝費	200
	↑			↑	残高
	残高				

9 現金の仕訳に挑戦

現金は資産の項目ですから増加した(受け取った)ときは、現金勘定の借方側(左側)に記入し、逆に減少した(支払った)ときは現金勘定の貸方側(右側)に記入します。

例 1-1 現金の仕訳

以下の5つの取引を仕訳してみましょう。

- 例 1) 現金 ¥1,000 を借り入れた。
- 例 2) 備品を現金 ¥400 で購入した。
- 例 3) 現金 ¥300 を貸し付けた。
- 例 4) 広告宣伝費 ¥200 を現金で支払った。
- 例 5) 手数料 ¥100 を現金で受け取った。

仕訳は以下のようになります¹³⁾。

例 1) 「現金 ¥1,000 の増加」と「借入金 ¥1,000 の増加」

(借) 現	金	1,000	(貸) 借	入	金	1,000
-------	---	-------	-------	---	---	-------

例 2) 「備品 ¥400 の増加」と「現金 ¥400 の減少」

(借) 備	品	400	(貸) 現	金	400
-------	---	-----	-------	---	-----

例 3) 「貸付金 ¥300 の増加」と「現金 ¥300 の減少」

(借) 貸	付	金	300	(貸) 現	金	300
-------	---	---	-----	-------	---	-----

例 4) 「広告宣伝費 ¥200 の発生」と「現金 ¥200 の減少」

(借) 広	告	宣	伝	費	200	(貸) 現	金	200
-------	---	---	---	---	-----	-------	---	-----

例 5) 「現金 ¥100 の増加」と「受取手数料 ¥100 の発生」

(借) 現	金	100	(貸) 受	取	手	数	料	100
-------	---	-----	-------	---	---	---	---	-----

13) 仕訳は「仕訳帳」という帳簿に記録されます。

10 1対多の仕訳もある

これまでは、借方1項目、貸方1項目の基本形の仕訳を見てきましたが、とりあえず頭金だけを支払って備品を購入し、残金は後払いにした場合など、借方1項目に対して貸方2項目といった複合的な取引になることがあります。

例 1-2 1対多の仕訳

備品 ¥1,000 を購入し、このうち ¥200 については現金で支払ったが、残り ¥800 については後払いとした。なお、後払いは未払金という負債の勘定科目を用いて記入する。

この取引を考えてみると、次のように分けられます。

「備品 ¥1,000の増加」と「現金 ¥200の減少」「未払金(負債) ¥800の増加」したがって、仕訳は以下のとおりです。

(借)備	品	1,000	(貸)現	金	200	
			未	払	金	800

この場合、現金支払い分と未払い分を分けて仕訳するので、貸方の勘定科目は2つとなります。なお、上下の勘定科目を入れ替えてもOKです¹⁴⁾。

(借)備	品	1,000	(貸)未	払	金	800
			現	金	200	

14) 勘定科目と金額の関係を崩してしまうと誤りになります。

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11



仕 訳

次の取引の仕訳を示しなさい。なお、勘定科目は下記から選ぶこと。

現 金 借 入 金 支払利息 受取手数料
備 品 給 料 支払家賃

- 5.1 A銀行から現金で ¥40,000 を借り入れた。
 5.10 備品 ¥15,000 を現金で購入した。
 5.14 手数料として現金 ¥25,000 を受け取った。
 5.26 家賃 ¥5,000 と給料 ¥8,000 を現金で支払った。
 5.31 A銀行に対する借入金のうち ¥20,000 を利息 ¥1,000 とあわせて現金で返済した。

解答



5.1	(借) 現 金	40,000	(貸) 借 入 金	40,000
5.10	(借) 備 品	15,000	(貸) 現 金	15,000
5.14	(借) 現 金	25,000	(貸) 受 取 手 数 料	25,000
5.26	(借) 支 払 家 賃	5,000	(貸) 現 金	13,000
	給 料	8,000		
5.31	(借) 借 入 金	20,000	(貸) 現 金	21,000
	支 払 利 息	1,000		

解説

- 5.1 銀行からの借入れの取引です。借入額は借入金勘定(負債)を用いて処理します。
 5.10 備品を購入したら、備品勘定(資産)で処理します。
 5.14 手数料を受け取ったら受取手数料勘定(収益)で処理します。
 5.26 家賃は支払家賃勘定(費用)、給料は給料勘定(費用)で処理します。
 5.31 利息は支払利息勘定(費用)で処理します。

かんじょうこうざ

勘定口座への集計

はじめに

例えば「1カ月間に使った広告宣伝費はいくらか」とか、「今、現金はいくら残っているのか」という残高に関する情報を知るためには、記録した結果を集計しておくことが大切です。

しかし、仕訳をただけでは、広告宣伝費や現金といった、よく変動する勘定科目の残高に関する情報を得るには不向きです。

常に残高がわかるようにしておくためには、どのような工夫が必要でしょうか。

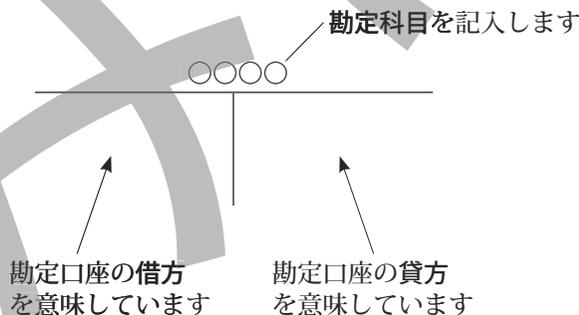
1 勘定口座への集計

上記のような問題を解決するためには、仕訳⁰¹⁾をした後それぞれの勘定科目の増減を1カ所にまとめておく必要があります。そのために勘定科目ごとに『勘定口座⁰²⁾』を設け、仕訳した結果を集計します。この作業のことを転記^{てんき}といいます。



これにより、特定の勘定科目の増減が一目でわかるようになり、1カ月間の売上高や月末の現金残高が簡単にわかるようになります。

勘定口座は、簿記の学習上は、次のような略式のものを用います⁰³⁾。英語の“T”のように見えることから、T字形式(Tフォーム)などといいます。



01) 仕訳は仕訳帳で行います。仕訳帳は日々の仕訳を発生順に記入した帳簿です。

02) 勘定口座は、ある勘定科目の増減を記録するために設けられます。

03) 試算表の作成問題で役立ちます。

2 勘定口座記入ルール

勘定口座に記入を行う場合のルールは次のとおりです。例えば、資産に属する勘定であれば増加は借方に、減少は貸方に記入するようにしてください。ということは、仕訳を行うときのルールとまったく同じです。

[借方]	資産の勘定	[貸方]	[借方]	負債の勘定	[貸方]
	増加			減少	
					増加
[借方]	費用の勘定	[貸方]	[借方]	資本の勘定	[貸方]
	発生			減少	
					増加
[借方]	費用の勘定	[貸方]	[借方]	収益の勘定	[貸方]
	発生			消滅	
					発生

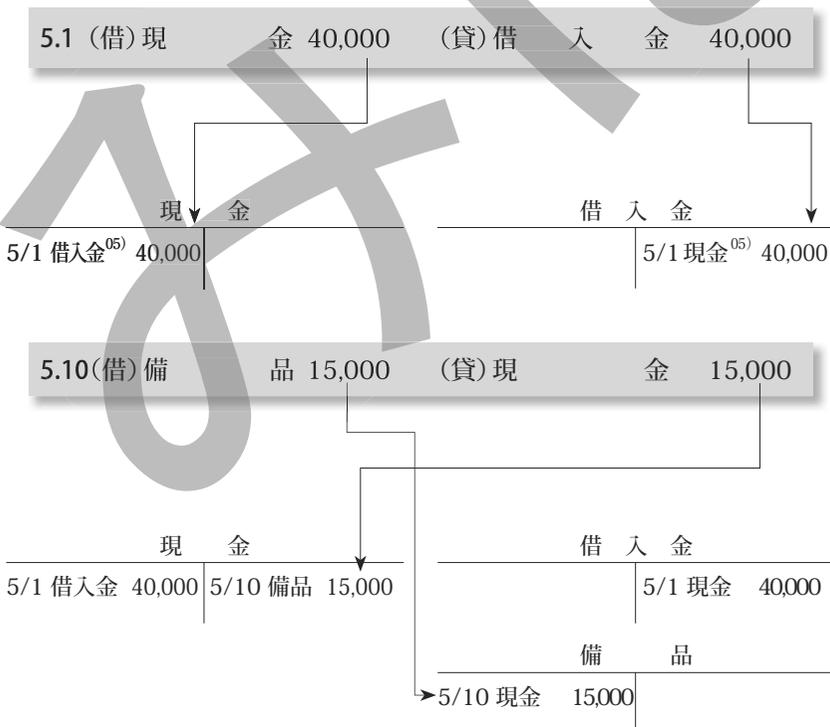
3 記入の方法

借方側…仕訳の借方に記入されている金額を、借方の勘定科目と同じ名称の勘定口座⁰⁴⁾の借方に記入します。

貸方側…仕訳の貸方に記入されている金額を、貸方の勘定科目と同じ名称の勘定口座⁰⁴⁾の貸方に記入します。あわせて、取引日の日付と相手勘定科目⁰⁵⁾を記入します。

04) 勘定口座を集めてひとつづりにした帳簿を総勘定元帳といいます。

05) 例えば、5月1日の仕訳で、「借方の現金」から見て、反対側の「貸方の借入金」が現金の相手勘定科目です。逆に、借入金の相手勘定科目は現金です。



普通預金・定期預金

はじめに

近年では、小切手の使用割合が急激に下がってきています。

これは、小切手を振り出して集金に来た人に渡すよりも、ネットバンキングなどを用いて口座振込で支払った方がお互いに安全でかつ経済的であるからです。

ここでは、普通預金や定期預金の処理についてみていきましょう。

1 普通預金

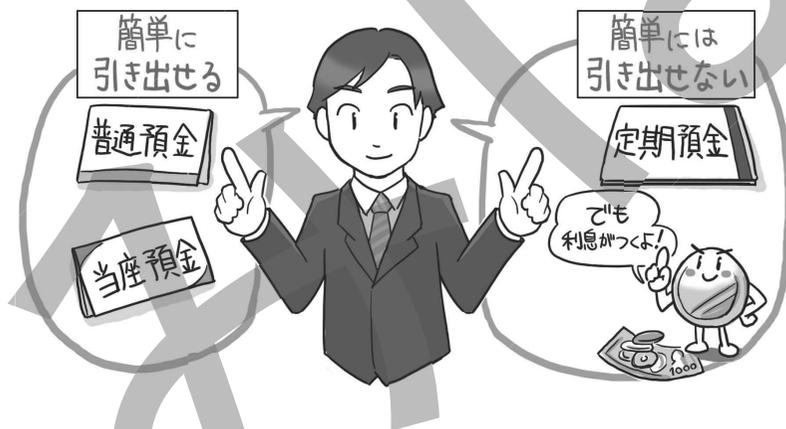
普通預金とは、いつでも引出しができる通常の銀行口座で、代金の決済にも用いられ、簿記上も普通預金勘定を用いて処理します。

例 3-1 普通預金口座からの支払い

未払金 ¥10,000 の支払いのため、当社の普通預金口座から先方の普通預金口座へと振り込んだ。

(借) 未 払 金 10,000 (貸) 普 通 預 金⁰¹⁾ 10,000

01) 先方の口座が当座預金口座であっても、仕訳は変わりません(あくまでも当社の仕訳ですから)。



会社によっては、入金口座は全国に支店の多い銀行、支払い用の口座は振込手数料の安い銀行といった形で複数の銀行の口座を使い分けることがあります。

このとき、普通預金勘定だけでは管理がしづらいので、「普通預金〇〇銀行」といった形で、普通預金の後に銀行名を付けて勘定科目として用いることがあります。

例 3-2 勘定科目に銀行名を付している場合の処理

未払金 ¥10,000 の支払いのため、当社の JRA 銀行の普通預金口座から先方名義の 103 銀行の普通預金口座へと振り込んだ。

なお、当社では、普通預金の後に銀行名を付して勘定科目としている。

(借) 未 払 金 10,000 (貸) 普通預金 JRA 銀行 10,000

2 定期預金

定期預金とは、原則として満期日⁰²⁾まで引き出すことができない預金で、簿記上も定期預金勘定を用いて処理します。

定期預金は拘束性^{こうそくせい}がある分、普通預金よりも金利が高いことから余剰資金^{よじょうしきん}の運用などに用いられます⁰³⁾。

例 3-3 預入時の処理

4月1日、JRA 銀行の普通預金の残高 ¥600,000 のうち、¥250,000 を同行の6カ月満期の定期預金に預け替えた。

なお、当社は預金の後に銀行名を付して勘定科目としている。

(借) 定期預金 JRA 銀行 250,000 (貸) 普通預金 JRA 銀行 250,000

例 3-4 満期日の処理

9月30日、JRA 銀行の6カ月満期の定期預金 ¥250,000 が満期をむかえ、利息(年利2%)とともに同行の普通預金口座に振り込まれた。

なお、当社は、預金の後に銀行名を付して勘定科目としている。

(借) 普通預金 JRA 銀行 252,500 (貸) 定期預金 JRA 銀行 250,000
受 取 利 息 2,500⁰⁴⁾

02) 3カ月、6カ月といった短期のものから、3年、5年といった長期のものまでさまざまな定期預金があります。

03) 満期日前にムリヤリ解約すると普通預金の利息しかもらえなくなります。

04) $¥250,000 \times 2\%$

$$\times \frac{6 \text{ 月}}{12 \text{ 月}} = ¥2,500$$

2%は年利ですから半年分にする点に注意しましょう。

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

3 記帳処理

預金の処理は入出金の度に行うのが通常ですが、記帳の手間を省くため、月ごとの入出金の明細表⁰⁵⁾からまとめて処理することがあります。

05) 事実上、記帳後の通帳です。

例 3-5 入出金明細

取引銀行から普通預金口座の入出金明細を入手したところ次のとおりであった。

	内容	出金金額	入金金額	取引残高
2月10日	ATM ⁰⁶⁾ 入金		300,000	省略
2月28日	水道光熱費	1,000		

06) ATMは自動現金預払機 Automatic Teller Machine の略。「ATM 入金」とあることから現金を預け入れたことがわかります。

2月10日 (借) 普通預金 300,000 (貸) 現金 300,000

2月28日 (借) 水道光熱費 1,000 (貸) 普通預金 1,000

Try it 例題

普通預金・定期預金の処理

下記の各取引について仕訳しなさい。

- 1年満期(金利2%)の定期預金に¥400,000を預け入れることとし、普通預金口座から預け入れた。
- 1年後、上記1.の定期預金が満期となり、元本と利息¥8,000を普通預金口座に振り替えた。

解答

1. (借) 定期預金 400,000 (貸) 普通預金 400,000

2. (借) 普通預金 408,000 (貸) 定期預金 400,000

(貸) 受取利息 8,000